

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が31例(男性21例(10歳代1例, 20歳代5例, 30歳代2例, 40歳代1例, 50歳代2例, 60歳代2例, 70歳代5例, 80歳代2例, 90歳代1例), 女性10例(10歳代2例, 20歳代1例, 30歳代1例, 50歳代1例, 80歳代3例, 90歳代2例)あり, 累積報告数は1,280例となりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
 - 新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**の報告が1例(20歳代女性1例)ありました。本年の累積報告数は15例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
 - 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が2例(70歳代, 80歳代男性各1例)ありました。本年の累積報告数は11例となりました。
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が1例(50歳代男性1例)あり, 症状は腸炎, 菌血症, 敗血症です。感染地域は国内, 感染経路は医療器具関連です。本年の累積報告数は24例となりました。
- ・ **百日咳**の報告が1例(10歳代女性)あり, 症状は持続する咳, スタッカートです。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は16例となりました。

◆ 今週のトピックス: <レジオネラ症>

京都市では2020年第40週にレジオネラ症の報告が2例あり, 本年の累積報告数は11例になりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 4例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 195例(肺結核 90例, その他結核 39例, 潜在性結核感染者 66例)うち喀痰塗抹陽性 42例】
- ・ 指定感染症: 新型コロナウイルス感染症 31例【1月以降の累積報告数 1,280例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ 四類: レジオネラ症 2例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 24例】
- ・ 五類: 百日咳 1例【1月以降の累積報告数 16例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

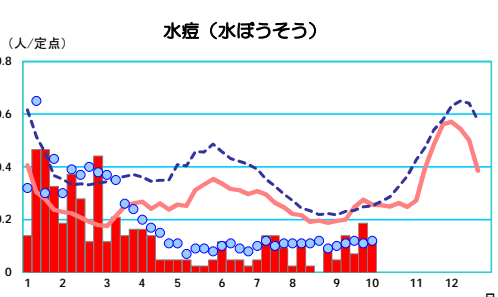
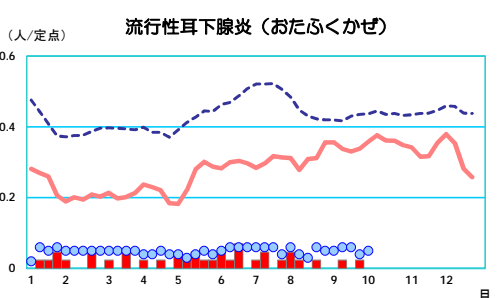
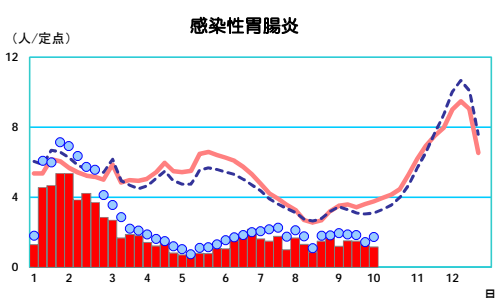
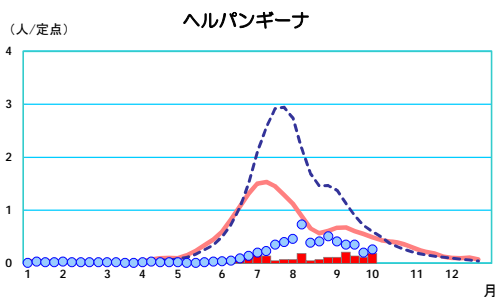
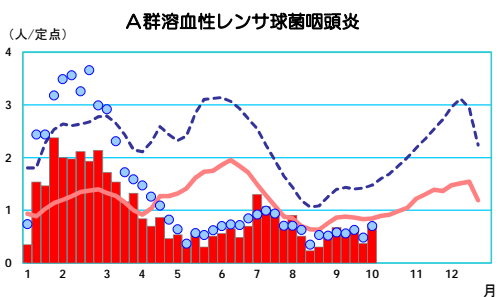
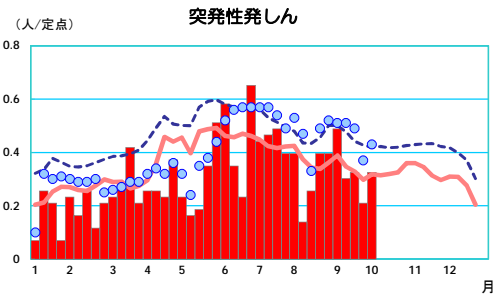
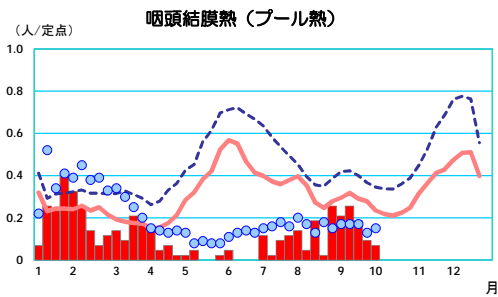
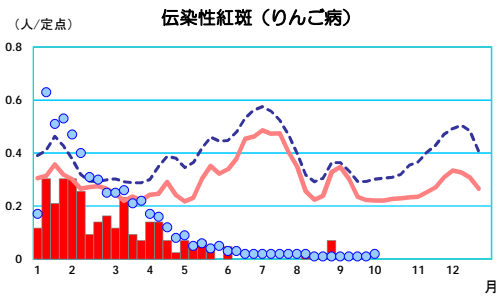
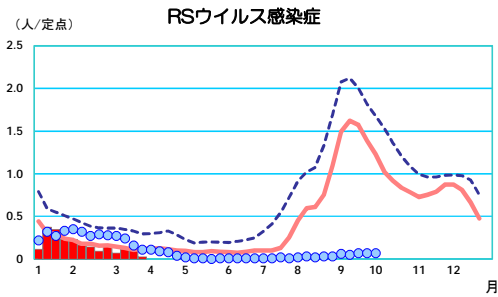
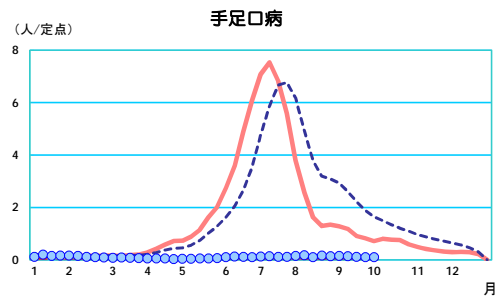
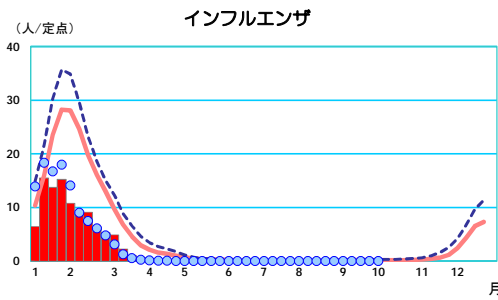
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.16	50
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.74	32
	③ 突発性発しん	0.33	14
	④ ヘルパンギーナ	0.19	8
	⑤ 水痘	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

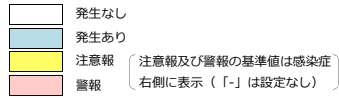
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <レジオネラ症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年10月7日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

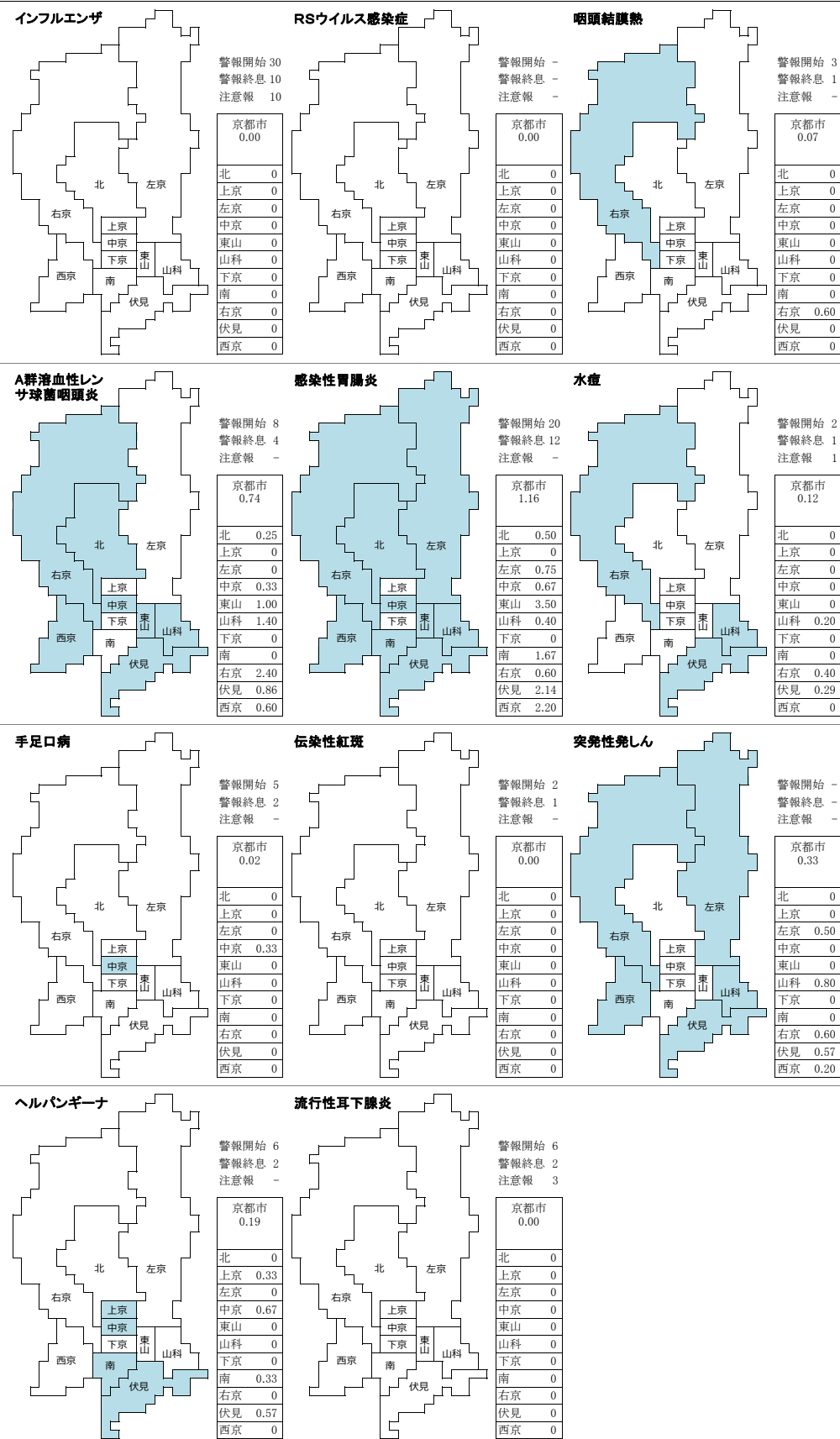
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第40週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第40週(9月28日～10月4日) トピックス: <レジオネラ症>

京都市では2020年第40週にレジオネラ症の報告が2例あり、本年の累積報告数は11例になりました。本市の年間報告数の推移を見ると、07年及び08年の2年間は20例程度の報告があったものの、13年頃までは概ね10例以下で推移していました。しかし14年以降は増加に転じ、昨年は30例を超えました。全国でも一貫して増加傾向にあり、18年からは2,000例を超える報告があります(図1)。年齢・性別では中高年の男性に多く、発生月は7月に最も多くみられます(図2, 3)。

レジオネラ症の原因はグラム陰性細胞内寄生性桿菌であるレジオネラ属菌(ほとんどは*Legionella pneumophila*)です。レジオネラ属菌は土壌等の自然環境中に普通に存在する細菌であり、レジオネラ属菌に感染しても必ずしも発症するわけではありません。しかし、循環水を使用する人工環境中(空調設備や入浴設備、加湿器等)では爆発的に増殖することがあり、そうした場所で大量のレジオネラ属菌にさらされたり、免疫が衰えていたりすると発症しやすくなります。

レジオネラ症の感染経路は経気道感染であり、レジオネラ属菌を含むエアロゾル(霧又は水飛沫)や土壌等の塵を吸いこむことで感染します(それぞれ水系感染、塵埃感染といいます。図4)。症例の多くは銭湯等の入浴施設を利用したり、空調設備のある場所を訪れたり、園芸や畑仕事によって感染しています。稀に、災害時の溺水やがれきの撤去作業時、自動車の感染から発生することもあります(*2)。レジオネラ症は環境から人に感染しますが、人から人への感染は知られていません。

レジオネラ症は中高年の男性に多く発生しますが、患者の職業は建設職や採掘職、運転職が多いことから(*3)、リスクの高い職業に性別や年齢層の偏りがあることが理由のひとつと推察されます。

レジオネラ症の病型は重症の肺炎型(レジオネラ肺炎)と軽症の発熱型(ポンティアック熱)が知られています。肺炎型はレジオネラ属菌に感染した人のうち、免疫機能が低いごく限られた人が2～10日後に発症し、乾いた咳や高熱、悪寒、肺炎等のいわゆる風邪に似た症状を引き起こします。加えて腹痛や下痢等の消化器症状や、手足の震えや舌がもつれる等の神経症状が出る場合もあります。適切な加療がなければ致命割合は60～70%に達しますが、有効な抗菌剤を使用すれば10～20%程度に抑えることができます。

発熱型は肺炎型と異なり、レジオネラ属菌にさらされた人の多くが、1～2日後に突然、発症します。症状は発熱や悪寒、筋肉痛等ですが、肺炎はみられず、通常は治療せずとも数日で軽快します。ただし、治った後に健忘症等の神経症状が半年から1年間残ることがあります。発熱型は死菌に対する反応が原因であると考えられており(*4)、そのため肺炎を起こさず一過性に治ると思われます。

レジオネラ症にワクチンはないので、予防はレジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。レジオネラ属菌は配管の内側でバイオフィーム(ぬめり)を作って増殖します。このため、消毒剤や水流で除去することは困難で、熱湯をかけたりこすり落としたりする必要があります。浴槽や設備は定期的に清掃するとともに、清掃時や庭仕事の際にはマスクをつけることで、吸いこむ水飛沫や粉塵を減らすことができます。特に、呼吸器疾患等の基礎疾患がある等、免疫機能が落ちている方は十分注意してこれらの作業を行ってください。

○京都市情報館ホームページ「入浴施設におけるレジオネラ症の防止対策について」(公衆浴場向け)
(<https://www.citv.kvoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000270285.html>)

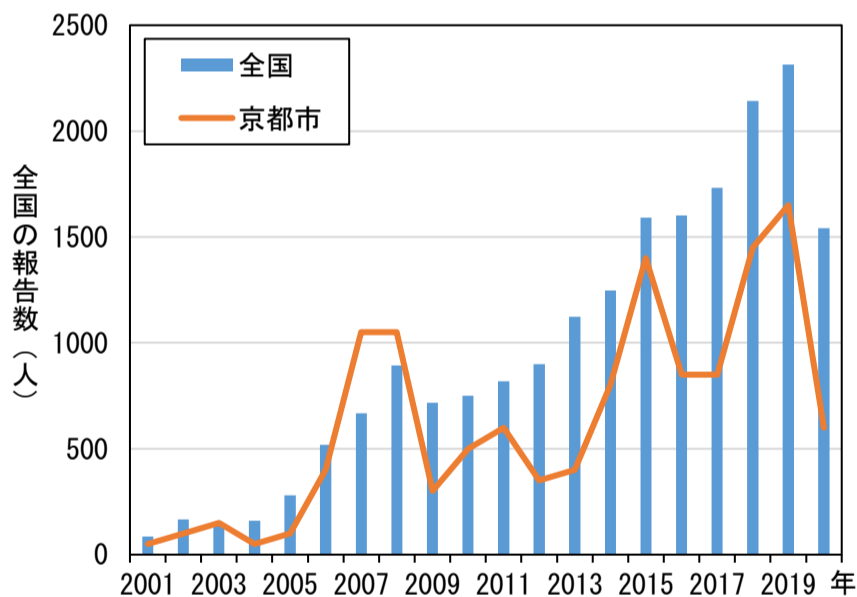


図1. 全国と京都市のレジオネラ症報告数(*1)※

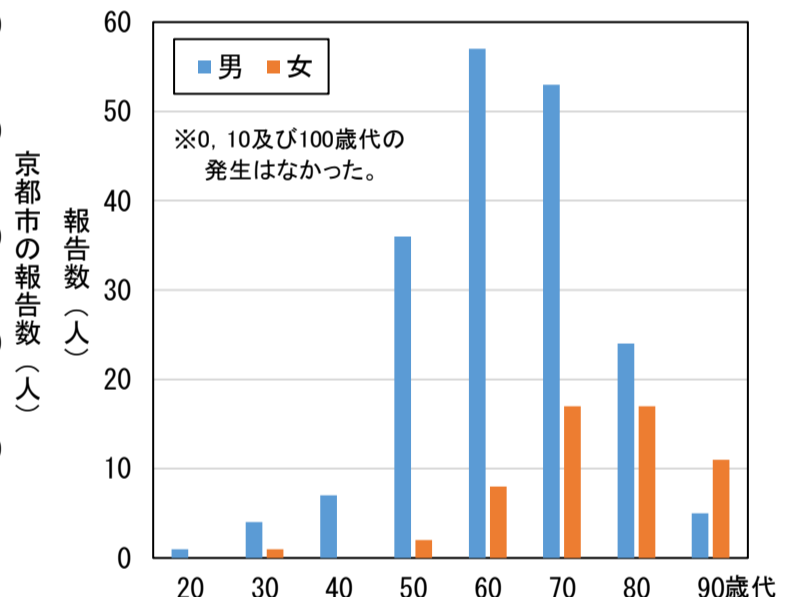


図2. 京都市の年齢階級別レジオネラ症報告数※

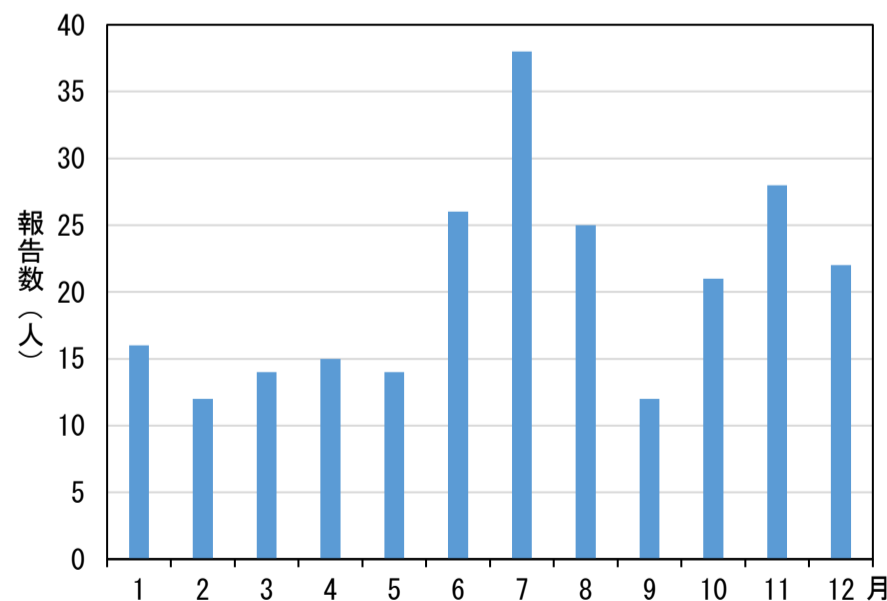


図3. 京都市のレジオネラ症の発生月※

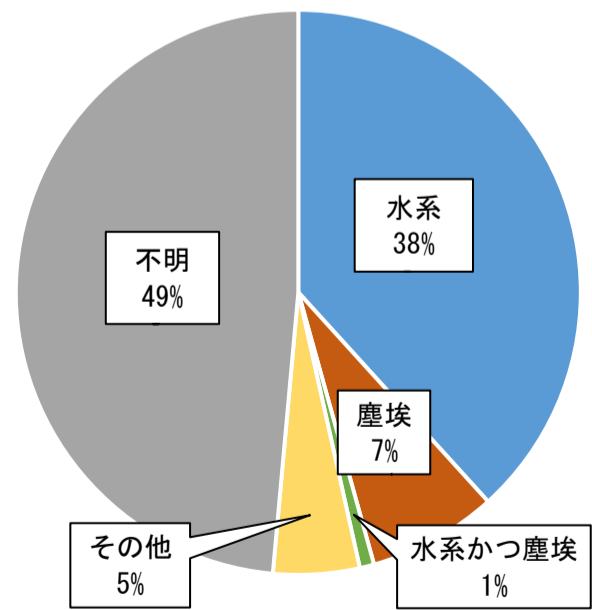


図4. 京都市のレジオネラ症の感染経路(推定含む)※

※…図1は2001年から、その他は2006年～2020年40週までの集計結果を示す。本文は以下のウェブサイトを参考に作成(以下、全て2020年10月8日閲覧)。
○国立感染症研究所「レジオネラ症とは」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ra/legionella/392-encyclopedia/530-legionella.html>)
○厚生労働省「レジオネラ症」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html)
(*1)国立感染症研究所「感染症発生動向調査」を元に作成
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/9009-report-ja2018-20.html>)

(*2)IASR 2013年6月号「東日本大震災に関連して感染症発生動向調査に報告されたレジオネラ症」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2252-related-articles/related-articles-400/3598-dj4003.html>)
IASR 2008年12月号「レジオネラ症の隠れた感染経路、自動車の運転や雨天は危険因子か？」
(<http://idsc.nih.gov/iasr/29/346/dj3463.html>)
(*3)国立感染症研究所「我が国のレジオネラ症の発生動向調査における概要」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/legionella-m/legionella-idwrs/7638-legionella-20171030.html>)
(*4)日本医師会「レジオネラ症」
(<http://www.med.or.jp/kansen/guide/legio.pdf>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第40週

疾病,行政区別報告数

2020年9月28日～2020年10月4日

データ入手日:2020年10月7日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	1	2	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	7	2	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	3	12	3	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	6	15	2	-	-	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	3	11	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	3	32	50	5	1	-	14	8	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	0.25	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	0.25	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	0.75	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	0.33	0.67	-	0.33	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1.00	3.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.40	0.40	0.20	-	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	1.67	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	0.60	2.40	0.60	0.40	-	-	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	0.86	2.14	0.29	-	-	0.57	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.60	2.20	-	-	-	0.20	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	0.07	0.74	1.16	0.12	0.02	-	0.33	0.19	-	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第40週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年9月28日～2020年10月4日

データ入手日:2020年10月7日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		3	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32	-	1	4	4	2	5	-	2	2	2	2	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		50	1	2	10	3	2	3	1	4	3	3	1	9	2	6	-	-	-	-	-	-	-
水痘		5	-	-	1	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		14	-	3	8	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		8	-	-	2	4	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.07	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.74	-	0.02	0.09	0.09	0.05	0.12	-	0.05	0.05	0.05	0.05	0.14	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.16	0.02	0.05	0.23	0.07	0.05	0.07	0.02	0.09	0.07	0.07	0.02	0.21	0.05	0.14	-	-	-	-	-	-
水痘		0.12	-	-	0.02	0.02	-	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.33	-	0.07	0.19	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.19	-	-	0.05	0.09	-	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第40週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年10月7日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	9	11	8	4	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	29	26	27	16	32
感染性胃腸炎	71	51	65	64	55	50
水痘	4	2	6	3	8	5
手足口病	4	4	4	1	1	1
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	-
突発性発しん	17	21	13	14	9	14
ヘルパンギーナ	5	5	9	6	5	8
流行性耳下腺炎	-	-	1	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	5	-	1	1	1
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	142	126	135	124	100	114

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.26	0.21	0.26	0.19	0.09	0.07
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	0.67	0.60	0.63	0.37	0.74
感染性胃腸炎	1.65	1.19	1.51	1.49	1.28	1.16
水痘	0.09	0.05	0.14	0.07	0.19	0.12
手足口病	0.09	0.09	0.09	0.02	0.02	0.02
伝染性紅斑	0.07	-	-	-	-	-
突発性発しん	0.40	0.49	0.30	0.33	0.21	0.33
ヘルパンギーナ	0.12	0.12	0.21	0.14	0.12	0.19
流行性耳下腺炎	-	-	0.02	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.30	0.50	-	0.10	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	3.53	3.31	3.14	2.96	2.40	2.73

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。